



今も元氣に出しています

【大阪府】新田 剛志 40歳

あの日を一生忘れません。すごく寒くて、お天気が良くて、そして夕日が本当に綺麗な日でした。ただその前の1カ月ほどは眠れず、食事も摂っておらず、心も病んでいました。

私は勤務先の会社でトラブルを起こしてしまい、その日は人事部長と面談することになっていました。会社が関係を別つことを告げるために設けられた会合でした。

とあるホテルでの会合を終え、会社への帰路につきました。社会人としての全てを否定され、経験の浅い私は、存在そのものを否定されてしまったと受け止めてしまいました。状況を受け入れるには経験が少なすぎ、考えは悪い方

にしか向かず、家族に対して果たすべき責任の取り方も、自分の命を引き換えにする以外に思い浮かばなくなっていました。

会社がある駅についても会社へは足が向かわず、駅のトイレでは何を考えても涙が止まりませんでした。

重い足を引きずり、構内を出て、駅前の広場を通ると、献血バスが目に入りました。過去に何度か経験があったため、逃げ込むように献血バスに行きました。

簡単な手続きをして、採血のために利き腕を差し出した際、担当してくれた看護師さんが「とても立派な血管ですねえ、採血がしやすいです」と褒めてくださいました。私がそんなに採血しやすいですか?と尋ねると「すごい勢いで出ています。

濃さもしっかりしていて本当にありがたいですね。こんな血管を持つている人がたくさんいると助かりますね」とまた褒めてくださいました。零れ落ちそうな涙を必死にこらえ、看護師さんに別れを告げ、バスを出ました。

空にはびつくりするほど綺麗な夕日が見えました。

あの時の看護師さん! 本当にありがとうございます。あなたがとうございませう。あなたが血管と血液を、私の存在を褒めてくださったおかげで、今も元気に生きています。献血は50回を超えましたよ、先日は骨髓バンクドナーとして、骨髓提供もしました。看護師さん本当にありがとうございます! あなたは命の恩人です! 今も元気に出てますよ!